

棚倉町商工会設立20周年記念式典

と き 昭和55年11月13日（木）
と ころ 棚倉町中央公民館



棚 倉 町 商 工 会

棚倉町商工会設立20周年記念式典

実 行 委 員

委 員 長	(棚倉町商工会長)	和 田 秀 寿
副 委 員 長	(棚倉町商工会副会長)	大 野 正 男
〃	〃	藤 田 嘉 平 二
委 員	(棚倉町商工会理事)	石 井 馨
〃	〃	佐 川 信 太 郎
〃	〃	鈴 木 栄
〃	〃	後 藤 賢 勇
〃	〃	倉 渕 英 男
〃	〃	高 信 清 士
〃	〃	鈴 木 勉
〃	〃	筧 忠
〃	〃	太 田 信 治 夫
〃	〃	水 野 一 夫
〃	〃	藤 田 暉 男
〃	〃	松 本 良 一
〃	〃	大 平 義 明
〃	〃	石 井 久 雄
〃	〃	吉 田 鉄 夫
〃	〃	遠 藤 哲 雄
〃	〃	藤 田 満
〃	〃	照 沼 義 勝
〃	〃	蕪 木 泰 二
〃	〃	富 沢 崇 行

棚倉町商工会設立20周年記念式典

委	員	(棚倉町商工会監事)	小	倉	清
〃		〃	牧	野	善八郎
〃		(棚倉町商工会青年部長)	鈴	木	壯一
〃		(棚倉町商工会婦人部長)	井	上	ヒデ
〃		(棚倉町商工会青年部副部長)	近	藤	善一
〃		〃	小	浜	章
〃		(棚倉町商工会婦人部副部長)	立	原	愛子
〃		〃	宗	田	智子

式典趣旨

商工会の組織等に関する法律（商工会法）施行20周年の記念すべき年を迎え、これまでの商工会活動をふり返り、新たな前進と発展を期するために、商工会関係者が一堂に会し、盛大に記念式典を開催するものである。

思いおこせば昭和35年商工会法が制定されるや、昭和23年に設立し、町の振興発展に寄与してきた棚倉町振興会及び近津商工会が発展的に解消し、昭和35年10月15日に設立総会を開催し、県下にさきがけて棚倉町商工会が誕生したのである。爾来弱体な小規模事業者の経営改善普及事業の推進及び地域振興発展に大きな実績をあげ、今日に至ったのである。

昭和37年5月27日に棚倉町商工会青年部が結成され、更に昭和41年6月21日に同婦人部が結成されて、商工会事業のよりよき協力者としてそれぞれ法の趣旨にのっとり、日夜経営改善普及事業の効果的推進と組織強化に努めているところである。

しかしながら現下の経済情勢は、インフレ傾向がもたらす消費動向の停滞、更に冷害及び大型店の出店などと相まって、我々中小企業をとりまく経済環境は楽観をゆるされない誠に厳しいものがある。

このような深刻な事態に対処するため、商工会が地域経済の中核的存在として果す役割を再認識し、併せて組織の拡充強化と、80年代の展望にたつての商工会活動を強力に推進しなければならない。

本日ここに棚倉町商工会設立20周年の記念すべき年にあたり、会員490有余と青年婦人部員の総意と総力を結集し、新たな決意のもとに、中小企業の健全な発展と商工会の一層の充実を図ろうとするものである。

式典次第

開会宣言

式典実行副委員長
棚倉町商工会副会長 大野正男

会長挨拶

式典実行委員長
棚倉町商工会長 和田秀寿

永年勤続役職員表彰式（別紙表彰者名簿）
受賞者代表謝辞

来賓祝辞

福島県知事殿
国会議員代表殿
福島県議会議員殿
棚倉町長殿
福島県商工会連合会長殿

記念講演 演題 『商工会と地域の時代』

講師 福島民友新聞社論説委員長

辺見和郎先生

閉会宣言

式典実行副委員長
棚倉町商工会副会長 藤田嘉平二

表彰者名簿

町長感謝状受賞者

和田 秀 寿 殿

商工会長感謝状受賞者

退職役員 10年以上

半 田 信 次 殿

緑 川 百 代 殿

上 田 豊次郎 殿

大 高 徳 司 殿

古 沢 義 孝 殿

青年部長 5年以上

面 川 勝 良 殿

婦人部長 10年以上

鈴 木 淑 子 殿

商工会長表彰状受賞者

15年以上在職役員

小 倉 清 殿

10年以上在職役員

大 野 正 男 殿

藤 田 嘉平二 殿

10年以上在職職員

小野里 保 雄 殿

スロージョー

1. 小規模事業費補助金要求全額の確保を期そう。
2. 商工会の組織によって地方の時代を確立しよう。
3. 大型店の進出を阻止し、併せて行政指導の強化を推進しよう。
4. 地域産業の育成と安定を図ろう。
5. 商工会青年部、婦人部活動の活発化を期そう。
6. 商工会館建設補助の増枠と増額及び、記帳指導員の完全人件費化を図ろう。
7. 商工会法改正の早期実現を推進しよう。
8. 政治意識の高揚を図ろう。
9. 老令化社会に対応する体制を確立しよう。
10. 省エネルギー対策に積極的に協力しよう。

商工会アイキャッチャー

商工会法施行20周年記念商工会アイキャッチャー



この図案は、商工会法施行20周年記念事業の商工会アイキャッチャー（シンボルマーク）として全国商工会連合会が制定したもので、次のような意がこめられています。

天馬ペガサスは、ギリシャ神話の有翼の天馬で、メドウサから生まれ、ゼウスのため雷霆の運び手となり、蹄で地を蹴って多くの泉を噴出させた。

一時、英雄ベレロホンの乗馬となったが、のち、天に上って星座になったといわれる。ローマ時代には不死のシンボルでもあった。

中天を走るペガサスは、いかにも颯爽として勇気に溢れており、また、希望に向って真正面に走ってゆくさまを象徴している。

このように、天馬ペガサスは、地域商工業者に勇気と希望を与えるとともに、その力強さによって105万商工会員に限りない躍進を連想させるものである。